



森林資源に関する企業との協働  
WWFのアプローチ

---

WWFジャパン 森林グループ長  
橋本 務太



# 本日の講演内容

1. WWFについて
2. 世界の森林資源の状況
3. 責任ある森林資源の調達



# 1. WWFについて

---



# WWFについて



WWF(World Wide Fund for Nature)  
(公益財団法人)世界自然保護基金は、  
地球環境保全団体(NGO)です。



WWFのミッション  
「地球環境の悪化を食い止め、  
人類が自然と調和して生きる未来を築く」



野生動物を守る

© Martin HARVEY / WWF-Canon



汚染を防ぎ資源を守る

© Edward Parker / WWF-Canon



地球温暖化を防ぐ



森を守る



海を守る



## 2. 世界の森林資源の状況

---

# 世界の森林資源について

## ■ FAO（国連食糧農業機関）の Global Forest Resources Assessment 2015

- 世界の森林面積 **約 40億ヘクタール**（地球の陸地面積の約1/3）
- 世界の自然林減少 **年間760万ヘクタール**（日本の約1/5）
- アマゾン, インドネシア, アフリカなど**熱帯地域での森林減少が深刻**

原因

燃料として（薪など）

森林火災（自然・人為的）



農地・植林地として

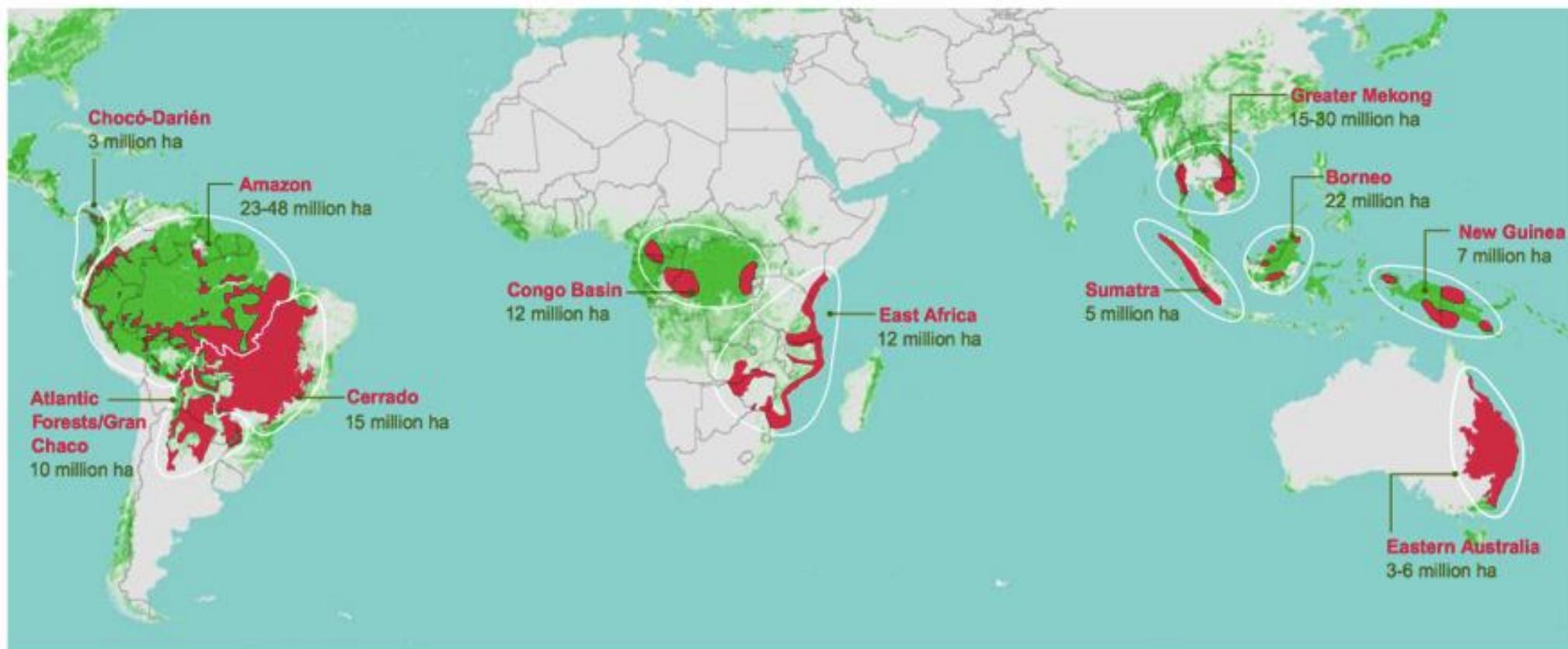
違法伐採

建築・家具・紙など用途は様々



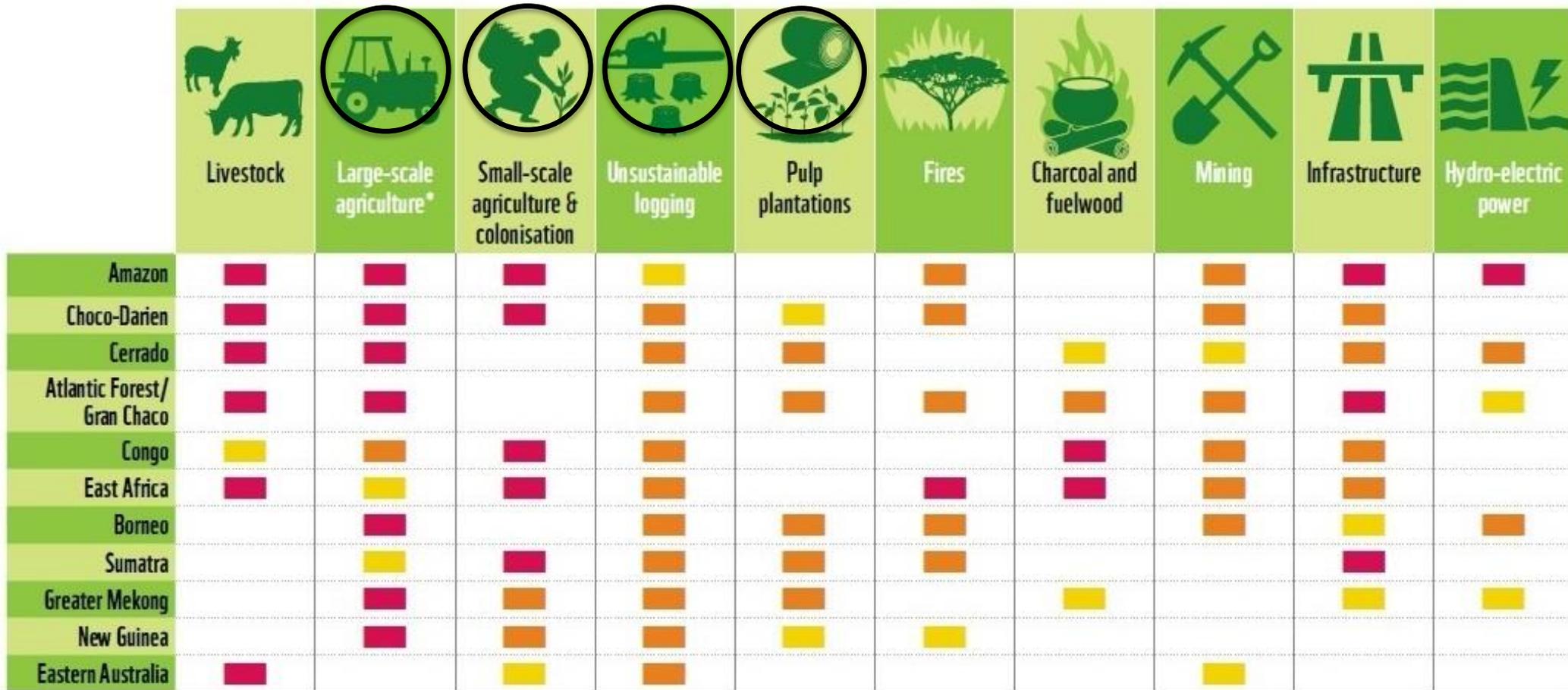
# “Deforestation Front (森林破壊の最前線)”

- WWFの報告書「森林破壊の最前線」では、2010年-30年までの森林破壊の80%が世界のわずか11の地域で起こると予測



The 11 deforestation fronts, with projected losses, 2010-2030

# 森林減少の要因（地域別）



■ 森林減少の最大の要因     
 ■ 森林減少の重要な要因     
 ■ 森林減少の要因としては軽度     
 □ 森林減少の要因ではない

- 森林減少の多くは、木材の利用だけでなく、資源採集や農地拡大など「世界の消費」と結びついている
- そのため、企業セクターによる「責任ある」原料調達が重要



# 3. 責任ある森林資源の調達

---

# 責任ある森林資源の調達 ～これまでの流れ

---

- 1993年：WWFが中心となってFSC®森林認証制度を立ち上げへ
- 2000年以降：認証品を買うだけではない「責任ある木材・紙の調達」の考え方が登場
- 2004年：WWFを含む7団体が中心となり「持続可能なパーム油のための円卓会議（ラウンドテーブル）」を設立。
- 2005年前後～：日本でも木材や紙の調達方針の策定が広がる。最低限の要求事項として「違法伐採でないこと」
- 2006年：グリーン購入法で政府調達における木材・紙の合法性確認が義務化
- 2010年頃～：合法性＝持続可能性ではないことを踏まえ、「持続可能性の確認」が必要に。
- 2015年前後～現在：パーム油、天然ゴムなど、木質以外の原料についても「責任ある調達」が広がる。世界的には「森林減少ゼロ」や人権侵害がないことなどが要求事項





# 森林に言及した調達方針の事例

---

- 日本では紙の事例が先行し、木材（住宅）などが続く
- 近年はパーム油、天然ゴムの調達方針も増加傾向

調達方針を公表している業種（概ね方針の公表順）

- ◆ コピー用紙販売
- ◆ 製紙・製紙関連業
- ◆ 紙ユーザー（例「持続可能な紙利用のためのコンソーシアム」）
- ◆ 住宅
- ◆ オフィス家具
- ◆ 楽器
- ◆ 木材建材商社
- ◆ パーム油（化学）、パーム油（食品）
- ◆ タイヤ
- ◆ バイオ燃料？

WWFは、これら事業者に協力し、現場情報の提供や調達方針策定のアドバイスを継続的に実施してきた



# 持続可能な紙利用のためのコンソーシアム



WWF  
FACTSHEET  
MARCH  
2016

Sustainability

## 持続可能な紙利用のための コンソーシアム

2013年11月、環境や社会に配慮した紙の利用を社会全体で推進するため、紙の利用について先進的な取組みを行う企業5社（味の素株式会社、キリンホールディングス株式会社、JSR株式会社、ソニー株式会社、三井住友信託銀行株式会社）と株式会社レスポンスアビリティ（運営アドバイザー）、WWFジャパンは、「持続可能な紙利用のためのコンソーシアム」を立ち上げました。



### 世界の森林減少と日本の紙利用

地球には、約40億ヘクタール、陸地の約3分の1にも相当する面積の森林があります。しかし世界の自然の森林は、今も毎年1300万haの速さで減少を続けています。自然の森林の減少は、特に生物多様性豊かな熱帯地域で深刻です。自然の森林が大規模に破壊されることにより、環境面の問題はもちろん、人々の生活や土地利用をめぐる社会的な問題にまでも発展しています。

こういった問題の背景には、さまざまな要因がからみ合っていますが、その一つに、製紙用の原料調達や植林地として利用するための土地開発があります。日本の紙消費量は、世界第3位、一人当たりの消費量も世界平均の4倍です。多くの紙製品や原料を海外から輸入する日本は、この問題に深く関与しているといえます。

### 持続可能な紙利用を社会全体で推進するために

紙は全てのビジネス、そして人々の生活に欠かせないものです。また本来、時間とともに成長する森林は、適切な森林管理や周囲の環境・社会への配慮が十分に行われていれば、将来にわたって使い続けることのできる資源といえます。

もちろん、紙を生産・供給する側が適切な森林管理や責任ある原料調達、供給を行うこ

とは欠かせません。しかし、それを利用する側においても、この問題をしっかりと認識し、十分な配慮を行う必要があります。そのため、本コンソーシアムに参加する企業は、2020年までに自らの事業活動において持続可能な紙利用を実践するとともに、その意識が社会全体に広まるよう、情報発信や普及啓発活動等を行います。

紙・紙消費量 (単位:千トン)	
1.中国	97,301
2.アメリカ	72,370
3.日本	28,038
4.ドイツ	19,770
5.インド	11,481
6.イタリア	10,599
7.イギリス	10,274

一人当たりの年間消費量 (単位:kg)	
1.ベルギー	317
2.オーストリア	261
3.ドイツ	243
4.アメリカ	231
5.アラブ首長国連邦	225
6.日本	220
7.スウェーデン	213
世界平均	57

出典: B2B Annual Review 2012

2013年、持続可能な紙利用を実践するユーザー企業5社と(株)レスポンスアビリティ、WWFジャパンが協働で立ち上げ。後に5社が新たに参画。



■ 参画要件  
責任ある紙調達方針の策定と運用。

■ 目的  
紙を生産・供給する側だけではなく、紙を利用する側も含めた社会全体で適切な紙利用を推進。





# ご清聴ありがとうございました

約100カ国で活動

約100カ国で活動  
を行っています。

1961年設立

WWFジャパンは1971  
年に設立されました。



約5000人

世界で活動する  
WWFのスタッフ  
は約5000人です。

約500万人

世界中に約500万  
人のサポーターが  
います。